サトウキビ黒穂病対策について

今年，さとうきびの株出栽培において，一部地域で**サトウキビ黒穂病**が発生しました。
黒穂病の症状の特徴として，病気の株は健全な株よりも茎が細く，節間が伸びて徒長し，先端部は長いムチ状（黒穂）となることが挙げられます。
この病気はカビによるもので，被害がある穂からカビの胞子が風で飛散することで伝染します。
そのため，発生した場合は早めに対策を行い，感染を広げないようにすることが重要です。
ここでは，基本的なサトウキビ黒穂病の対策について紹介します。

【さとうきび黒穂病対策】

① 発病株はムチ状物（黒穂）の出現前に，ほ場外へ持ち出し，適正に処分する。
② ムチ状の穂（黒穂）が出現した茎は，胞子の飛散を防ぐために，ビニール袋をかぶせて株ごと抜き取り，適切に処分する。

サトウキビ黒穂病の症状

ビニール袋をかぶせて
株ごと抜き取る

ビニール袋をかぶせた様子

③ 多発ほ場や放棄ほ場は早急に更新する。
④ 農林８号や農林３０号などの黒穂病抵抗性が強い品種を植え付けるようにする。

【黒穂病に対する品種の抵抗性評価】

強	中	弱	極弱
農林８号 農林30号	農林22号 農林27号 農林32号	農林17号 農林23号 はるのおうぎ	農林18号

⑤ 発病ほ場や隣接ほ場から採苗しない。また，来歴の明らかな苗を使用する。
⑥ 植付前にベンレートＴ水和剤２０で消毒する。

使用方法	希釈倍率	使用時期	使用回数
10分間種苗浸漬	20倍	植付前	１回
24時間種苗浸漬	200倍		